

令和7年度 福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）  
地域再生協議会 会議概要

■ 日 時

令和7年8月18日（月） 14時00分～14時40分

■ 場 所

函館市役所8階 第1会議室

■ 内 容

1 開 会

2 議 事

(1) 地域再生計画における令和6年度目標達成状況について

3 そ の 他

4 閉 会

■ 配付資料

資料1 令和6年度 目標達成状況

資料2 居住者数に関する補足資料

資料3 多世代交流センターの利用状況

■ 出席委員（8名）

河原委員，齋藤委員，武田委員，原委員，平野委員，山室委員  
中原氏（伊東委員代理），藤林氏（川村委員代理）

■ 随 行 佐々木氏，樺澤氏（創生会グループ）

■ 傍 聴 0名

■ 報道機関 1社

■ 事務局職員

保健福祉部地域包括ケア推進課 渡辺主査，川村主事

## ■ 会議録（要旨）

### 渡辺主査（地域包括ケア推進課）

---

ただいまから、令和7年度福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）地域再生協議会を開催する。

なお、本日は伊東委員、川村委員が都合により欠席となっているが、代理として、創生会グループ北海道事業部 統括部長の中原様、アルファコート株式会社の藤林様に、それぞれ出席いただいている。また、桜井委員が都合により欠席となっている。

委員の交代があったので、所属と氏名を紹介させていただく。（山室委員を紹介）

それでは、これからの進行は、齋藤会長をお願いしたい。

### 齋藤会長

---

それでは、議事を進めさせていただく。（1）「地域再生計画における令和6年度目標達成状況について」、事務局から説明願いたい。

### 渡辺主査（地域包括ケア推進課）

---

それでは、資料に沿って説明させていただく。

（資料1～3に基づき説明）

### 齋藤会長

---

事務局から説明があったが、何か質問や確認したいことはあるか。

この協議会は今回で一区切りと伺っている。振り返りではないが、委員の皆さんから何か一言ずついただければと思う。中原さんから、エリア整備事業の代表法人として、補足することなどあればお願いしたい。

### 中原氏

---

日吉では介護施設もある程度満床に近い状態で継続できているし、あとは人員を確保してきっちりと適正な運営を継続していきたいということと、多世代交流センターでは、大々的なイベントはできないが、細かいイベントを繰り返して、年に1回のふれあい祭を定着させて、地域の皆さんに貢献できればと思っている。今後、このような協議会がなくなったとしても、できる限り創生会の中で努力していけるものがあれば、職員と一緒に考えていきたい。

### 齋藤会長

---

生涯活躍のまちということで、エリアに住んでいる方はもちろん、多様な人達がエリアの活性化に参画していけるような形を目指してこの10年やってきたが、色々なことがあってうまくいかない部分もあって、創生会さんのおかげで何とかここまで来たということなので、これからも地域の皆さんと、願わくば新たなボランティアも迎えていただきながら、エリアの活性化をさらに目指していただければと思う。

藤林氏、エリアの状況について感想等があればお願いしたい。

## 藤林氏

---

私は駐車場に関わる対応をしているが、結果的に、もう少し需要があればと期待しつつ、借りていただく方が思うように伸びなかった。おそらく、今の事務局の報告を聞くと、今後駐車場の利用率は上がらないだろうと想像する。この事業は、確か10年くらいの期間見直しができるということがあったと思うので、駐車場のあり方について、あれだけの広いスペースが今後必要なのか、駐車場の土地でどういったことができるのか、その流れができれば、利用者数の増加やこの地域の活性化にもつながってくると思うので、今後、市の担当者や創生会さんとも色々と話をさせていただいて、駐車場の運用方法、あり方、活用方法を具体的に検討したいと考えている。

## 齋藤会長

---

河原委員は、エリアの構想策定時から関わっておられるが、どうか。

## 河原委員

---

地域福祉の相談件数は、おそらく窓口に来て相談された件数をカウントしているのだと思うが、一般の人にとっては相談に来ること自体にハードルがあってなかなか来られない人も多いと思う。窓口に来た件数はこの実績かもしれないが、例えば多世代交流センターに来た一般の方が職員に「こういうのないの？」と訊ねるとか、会話の中で結果的にそれが相談になっていることも潜在的にあるのではないかと思っていて、相談件数自体は課題があるのかもしれないが、そうした全体を見る視点も必要ではないかと思う。

ボランティアについては、相談件数とボランティアは課題になりそうだと初期段階から見えていたが、センター職員はカフェの運営など色々な業務があると思うが、例えばカフェ運営のボランティアなら募集したら手伝ってくれる人がいるかもしれないとか、もしかしたらこの業務だったら住民の方々に頼ってもいいかなとか、そういった仕事の棚卸しをしてもいいのではないか。これだけの人数がセンターを利用していれば、その中から担い手になりたい人が出てくるのではないかと思う。募集などの準備にもそれなりに時間を取られるとは思いますが、やってみる価値はあるのではないか。これだけの利用人数の実績があると、それなりの動きがあると思うので、可能であればそんな展開も期待したいと思った。

## 齋藤会長

---

今まで利用者数が伸びて堅調に推移してきたからこそその今の提言だったと思う。これからは、利用するばかりではなく、もてなす側にも地域住民がなっていければ、地域の活性化になるしボランティアの増加にもつながる。

前半の部分で、地域の相談機関ということかというと、地域包括支援センターがかなり大々的に活動しているので、あのエリアだと地域包括支援センターゆのかわになると思うが、折り入って相談というとおそらくそちらに行っていると思う。河原委員がおっしゃるような、別な形の、日常的な相談というか、「自分でも何か役に立てることはないかしら」というような話が今後増えていけばいいと思う。

渡島総合振興局の山室委員はどうか。

## 山室委員

---

目標達成状況は、数値目標を超えているものもあれば満たないものもある。福祉のコミュニティであれば、住まい・医療・介護のどれも欠くことできない一体的なもの自分も認識しているが、目標値はあくまでひとつの指標であって、目標に達していないものでも着実に成果が上がっているものもあるとも伺っており、今後、渡島管内において、福祉を活用したまちづくりはどこのまちでも課題として出てくると思うので、今回のこのような取り組みについては、先行事例として色々なところで情報発信していただければいいと思う。

## 齋藤会長

---

今回の取り組みのいいところも悪いところも色々ある中で、先行事例として事例検討の材料になりそうだということである。武田委員はどうか。

## 武田委員

---

民生委員として日吉町全般の地域で活動している。コンテ日吉ができた時は、人口の創出ということがあったが、今回の資料を見ると、人の流れは落ち着いたということで、地域的にも落ち着いた状況と思う。地域包括支援センターとも色々話をすることがあるが、施設の利用状況が非常に充実しているということで、問い合わせも最近はなくなっており、それぞれの施設が地域に根差してきているのだと思っている。

別の話になるが、新道に入っていくところの入り口に第八団地というのがあるのだが、その住民が交通量のピーク時に車の出入りができないということで、我々も町会として相談などを受けている。警察などに近隣町会で要望を出しているところである。ピーク時にはどうしても車が並んでしまうので出られないという状況が生じていることを皆さんに知っていただきたかった。

## 齋藤会長

---

武田委員からの情報共有であった。平野委員はいかがか。

## 平野委員

---

役員会や総会で多世代交流センターを利用しているが、いつもお願いした日時に借りることができており、町会長として満足している。そのほか、特に問題等は感じていない。

## 齋藤会長

---

原委員、御意見等あれば伺いたい。

## 原委員

---

多世代交流センターの利用数については、昨年と大きく変わらず推移しており、令和6年度の利用割合も令和5年度とあまり変わっていないということで、地域の方々にコンスタントに利用していただいているのだと思っている。今後も地域住民の集う場として地域に根付いて欲しいと考えているし、これまでの創生会さんの御尽力の賜物と感じている。感謝申し

上げる。今後のボランティアの活動は、施設の利用者がある程度いるので、そこからどう発展していけるかというところだと思う。

従業員、特に介護人材の確保は、ほかの分野も含めて函館は特に人材不足ということが言われており大変な状況だが、介護人材については市独自の取り組みも実施しているので、引き続き施設が安定的に運営できるような施策を継続していきたいと考えている。

## 齋藤会長

---

委員の皆様から一言ずついただいたが、全体を通して、何か意見等はあるか。(なし)

次に「その他」として、委員の皆様から何かあるか。(なし)

事務局から何かあるか。

## 事務局

---

当日配付した「コンテNEWS」とふれあい祭のチラシについて少し説明させていただく。「コンテNEWS」の裏面に貸し室の利用状況が載っており、見ていただくとわかるが、ほとんど埋まっている状況で、とても活発に利用されていることがわかると思う。ふれあい祭は9月23日に開催されるが、多世代交流センターの最も大きなイベントであり、普段貸し室を利用しているサークルの皆さんや地域の方々がステージイベントに参加している。よろしければぜひ当日見に行ってくださいと思う。

次に、本協議会の設置根拠となっている地域再生計画は、今年度末で計画期間が終了する。これまで10年の間、委員の皆様には、目標達成状況の検証などを通じてエリアの運営について御意見をいただいていたが、これで一つの区切りとし、今回の会議を最終回として、役割を終え、閉じることにしたいと考えている。

なお、令和7年度の目標達成状況については、先ほど御報告した通り、令和6年度の状況から大きく変わることはないものと予想しているが、令和8年4月以降、速やかに数値を取りまとめ、皆様に書面にて報告したいと考えている。

地域再生計画終了後も、福祉コミュニティエリア整備事業の代表法人である創生会さんと市との関係はこれまでと変わらないので、市としてエリアの発展のために協力していきたいと思っている。また、地域再生協議会がなくなったあとのエリアの運営体制や地域との関わり方については、今後、創生会さんの御意見を踏まえながら検討していきたいと考えている。

最後に、委員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

## 齋藤会長

---

ただいまの事務局からの発言に関して、委員の皆様から何かあるか。(なし)

創生会さんの方で、今後のエリアの運営体制や地域との関わり方について、現時点で、何かお話しいただけることはあるか。

## 中原氏

---

先程話した内容で、今後の企画みたいなものはまだまだできていない状況なので、職員とも話し合いながら、今後検討していきたいと思っている。

## 齋藤会長

---

自分は以前に、ボランティアコーディネーターのようなことをやったことがあるが、ある一定の時期が来ると、今までずっと利用する側だった地域の方達が、今度は自分たちが担い手になる、やりたいという気持ちになってくれる、そういうフェーズが来る。10年経って、多世代交流センターの活動が堅調に推移して定着してきて、その次のフェーズとしてそういう時期が来ると思っていて、障がいのある人もない人も、エリアの住民もそうでない人もあそこを集って、地域の色んな人たちが自分のできることであのエリアを拠点に活躍できる時が、次のフェーズとしてくるのではないかと思っているので、期待して見ていきたい。

それでは、令和7年度の目標達成状況などについては、令和8年度以降に事務局から書面で報告をいただく、ということよろしいか。(異議なし)

本協議会は今回をもって終了とする。委員の皆様には改めて感謝申し上げます。

全ての議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。

## 渡辺主査（地域包括ケア推進課）

---

それでは、本日の協議会を終了する。